

山口県東部の山間部に、「食の総合プロデュース」を標榜して急成長している企業がある。アデリー（柳井市）はスイーツを核とするオリジナル商品の企画・製造というビジネスモデルを案出し、この5年で売上高が5割増え、50億円を超えた。さらに新規投資により、100億円を目指す計画を固めつつある。

スイーツ 企画で味付け

デザインから納入まで



【会社概要】
 ▼住所 山口県柳井市柳井11171の1
 ▼創業 1973年
 ▼社長 小野典子氏
 ▼売上高 53億円（2018年2月期）
 ▼従業員 230人
 ▼特徴 贈答・販促・カタログ販売向けの食品セットを企画して製造販売する。既存の商品調達から開発まで手掛ける



東急ハンズ池袋店の催事。商品の企画などを担当したアデリーのブースの様子が写っている。

「特別」で成長
 製造はどの工場に発注するか、キャラクターを使うなら著作権は、パッケージのデザインはどうか、袋詰めはどこでするか、袋詰めはどの工程でやるか、などの煩雑な工程を丸ごと受注する。展覧会や企業の限定品、TV番組の連動商品などに始まり、カタログ販売の季節・限定商品の企画などに取り組む。「量産品ではなく、特別な場面での特別な商品が求められている」（小野社長）

25年前の小野社長の入社時から卸売業も始めた。企業向けの中元歳暮向け、出産や結婚など慶事の祝い品に強く、いまは、このモデルを食品全般に広げること、企画

しかし、いわばこれは従来型のモデル。近年の成長を支えたスイーツの企画事業が生まれたのは10年前だ。得意先から出た産祝いの菓子のセットアップを頼まれたのがきっかけだった。「あるものを組み合わせてパッケージを変えただけなのに、袋詰めのような作業も可能にする。」

個店にパッケージだけを上げた50〜200個くらいは、オリジナルスイーツを提供しようという構想も進める。営業強化で東京本部も設ける方針だ。「頭をひねって、付加価値に形を与える」のがアデリーの使命だと小野社長は語る。計画では80億円、100億という企業規模も視野に入っている。

（山口支局長 竹田聡）

ンリオ、迎賓館など多岐にわたる。中身は特注の焼き菓子や、パッケージに社名やイベント名、キャラクターをあしらったものだ。「自社のビジネスを説明するときにも困る。色々考えてみたが」と苦笑するのは、5年前に就任した小野典子社長（46）だ。例えば、羽田空港のコンビニ「エアロソーン」でオリジナルのスイーツを売ろうという企画があったとする。アデリーはそこで売れる商品の企画、製造、パッケージデザイン、梱包、納入までを請け負う。

「特別」で成長
 製造はどの工場に発注するか、キャラクターを使うなら著作権は、パッケージのデザインはどうか、袋詰めはどこでするか、袋詰めはどの工程でやるか、などの煩雑な工程を丸ごと受注する。展覧会や企業の限定品、TV番組の連動商品などに始まり、カタログ販売の季節・限定商品の企画などに取り組む。「量産品ではなく、特別な場面での特別な商品が求められている」（小野社長）

25年前の小野社長の入社時から卸売業も始めた。企業向けの中元歳暮向け、出産や結婚など慶事の祝い品に強く、いまは、このモデルを食品全般に広げること、企画

しかし、いわばこれは従来型のモデル。近年の成長を支えたスイーツの企画事業が生まれたのは10年前だ。得意先から出た産祝いの菓子のセットアップを頼まれたのがきっかけだった。「あるものを組み合わせてパッケージを変えただけなのに、袋詰めのような作業も可能にする。」

個店にパッケージだけを上げた50〜200個くらいは、オリジナルスイーツを提供しようという構想も進める。営業強化で東京本部も設ける方針だ。「頭をひねって、付加価値に形を与える」のがアデリーの使命だと小野社長は語る。計画では80億円、100億という企業規模も視野に入っている。

（山口支局長 竹田聡）